

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400822		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21岱明		
所在地	熊本県玉名市岱明町山下1037-3		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村報告日	平成30年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・職員は法人の理念のもと専門職としての技術や知識を学び実践していくため常に自己研鑽に努め、ご利用者様の安心・安全、穏やかな生活を基本とし、ご家族様をも含め皆が家族として暮らせるホームを目指しています。</p> <p>・ケアプランを中心に職員は常に情報を共有し、課題等が生じれば速やかに改善への取り組みを行い、どのような状態にあっても自立支援を目的としたケアを行えるよう努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人設立以来の理念と初代理事長の思いを引き継いだケアを行っている。地域との関わりも継続して力を入れており、昨年からは入居者数人が地域「ふれあいサロン」へ出向く等、相互往来による交流が始まった。設立17年を迎え、近年就業規則の見直しや介護計画作成への職員の関わり方、身体拘束をしないケアへの取り組み、職員の外部研修への参加推奨等、職員の意見を取り入れながら事業所全体でケアに臨む姿が窺えた。この2年間には入居者の入れ替わりもあったが、職員面談でも「その時その時を大切に」「いつもの顔・声の安心感」「笑顔・賑やかな雰囲気」大切に心掛けてきた様子を聞く事ができた。調理が外注になった分ケアへの職員のマンパワーを入居者との関わりを密に行いたいとの意向があるようです。調理の音やにおいなど、さほど気にしていなかった日常の一部が変わったことを職員は受け入れて、ケアの質向上に活かされまことを期待します。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、私たちのケアはすべて理念に基づくものであると職員全員が理解し、実践している。年度初めに立てる個人目標も理念を基に立てており、目標達成のため日々努力している。	設立以来の法人理念は事業所でのケアの基本としている。申し送り時の唱和後、理念より一日一項目を選び特に力を入れている。職員へは入職時から日々、理念に沿ったケアが伝えられ、振り返りの機会を持ちながら業務の基本とされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者・職員ともに地域と顔の見える関係作りを目指し、積極的に地域行事にも参加したり、ホームの行事等の際にも案内を行い参加していただいている。また、災害時の避難場所としてもホームを提供する準備は出来ている。	事業所は自治会にも参加し、日常的な関りを大切にし地域での生活が営まれている。特に避難訓練には地域自衛団の協力も得、事業所・地域行事の行き来や毎月公民館で開催される「ふれあいいきいき交流会」への入居者参加等、交流の機会も多い。	事業所では入居者を「地域で共に支える」ため、認知症・事業所の啓発に力を入れ、「地域と制度の橋渡し」の役割に努めている様子が窺えました。今後の継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族、入居相談・施設見学の方々に対して認知症についてや介護保険・施設の利用方法などを伝えている。地域行事へも参加し、認知症への理解・啓発を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方々の状況やホームの活動報告、勉強会等を行い、委員様からは貴重な意見をいただいている。会議の議事録は玄関横に掲示し、いつでもどなたにも見ていただけるよう案内している。	運営推進会議では事業所の状況報告だけでなく、避難訓練や看取り・食中毒についての勉強会を行う等、勉強会や意見交換の場ともなっている。年度初めには理念の紹介も行い、事業所がケアに取り組む姿勢も伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議や行事、研修等にも積極的に参加し、行政担当者との顔見知り関係を構築し、必要時には情報交換しながら連携を図っている。また、定期的にホームの空床状況もお知らせし、入居相談へと繋がっている。	町主催の研修等には積極的に参加し、また日常的に報告・連絡等を行うことで協力関係の構築を行っている。運営推進会議への参加は地域との意見交換の場ともされており、事業所での防災訓練には町立ち合いの機会もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令・理念に基づき入居者の人権が守れるよう常に意識しながらケアに取り組むとともに、会議や勉強会の中でも常に学び拘束のないケアに努めている。前年度の拘束事故を踏まえ、研修・勉強会を継続して行っている。	従来身体拘束をしないケアについては職員会議で学びと振り返りを行っており継続している。今年度は職員で委員会を立ち上げ、内容は運営推進会議にも報告している。職員間では毎月スピーチロックに関するアンケートを実施、都度検証し全員で意見交換を行い、改善に繋げている。前年度の事業所での事例を踏まえ、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に学習し正しく理解し、意識をもってケアに当たっている。年に1度はストレスチェックを実施し職員の精神的負担を理解するとともに管理者は日頃より職員の言動・表情・服装等にも注意・関心を向け細かな変化にもいち早く気づき虐待に繋がらないよう努めている。		

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利侵害のないその人らしい生活ができるよう、権利擁護に関する制度の学びへの必要性は感じており学びもするがまだまだ知識は浅い状態である。現在入居者の中に対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホーム側からの十分な説明に加え、利用者・家族からの質問や疑問等にもきちんと説明を行い理解・納得していただいている。署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会総会、面会の際等に意見をいただいている。利用者には日頃の関わりの中で要望を伺っている。利用者本人・家族とは意見や要望の出しやすい関係作りを心がけ、貴重な意見をより良いサービスに繋げている。	職員は入居者起床時から日中にかけて触れ合いを大切にしており、関りの中で意向を汲み取っている。年間を通じて家族面会は多いが、年1回の総会、行事毎の参加声掛け等、家族との関係を大切にしている。日常的に意見や要望を表す機会作り心掛けている。	日頃から事業所では「ここも自宅と思って」と「もう一つの自宅」であることを家族へ伝え、意識したケアの実践を窺えました。管理者と家族が会う機会が多いことから家族の安心感にも繋がっていると思われる。今後も入居者・家族、双方への寄り添いを大切にしてください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンスや各会議において意見を出し合い、業務改善に繋げている。法人運営については全体会議や文書の回覧において周知徹底している。日頃より管理者と職員が意見交換しやすい環境作りに努めている。	日々の気付きによる意見が述べやすい体制に努めている。業務改善を中心とした毎月の職場会議、隔月の法人全体会議による情報は職員間で共有し、事例を交えながら職員同士意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法に基づいた勤務体系、職員の能力・資格に合った給与体系、処遇改善、年度末の経営報告もなされている。内外研修参加も積極的に行っている。また、個人の資格取得についても自己の成長や意欲向上に繋がるようサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や日々のケアの中での実技指導の実践(年に1回は実技研修)、外部研修への参加等を通して知識・技術を得ることでケアの質も向上し意識も高まっている。資格取得に向けての配慮やサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や地域密着型サービス連絡会に参加し情報・意見の交換を行い連携を深め、サービスの質の向上に繋げている。		

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人からの要望や思いを伺うことはなかなか難しいが本人からの言葉を引き出したり、行動や表情等からも可能な限り本人の思いを知るよう努めている。入居後しばらくは特に本人に寄り添い安心感を持っていただけるよう支援しながら信頼関係を深めていくよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望についてはしっかりと傾聴・情報交換をしながら不安の軽減を図るとともにホームで出来得る範囲において最大限の支援を行っている。定期的な状況報告、特変時の連絡等も密に行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の不安解消のため、本人家族の要望やこれまでの生活歴・現状等の情報をより多く集め、本人・家族・職員間で検討し、支援に繋げていく。また、他のサービス等についても説明を行い選択の幅を広げることも支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し家族の一員として支援できるよう、利用者と職員が共に認め合い、信頼しあえる関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援には家族の協力が必要であることを理解していただき、本人を中心に共に支援する協力体制を構築し、安心のサービスを提供している。面会や受診の同行も無理のない範囲で協力を得ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら馴染みの美容室へ出かけたり、知人の面会の継続を依頼したりすることでこれまで本人が築いてこられた関係性を継続するとともに、地域の行事への参加やホームでの行事へのお誘いなどしながら地域(地域住民)に馴染めるような環境の整備も行っている。	家族協力による外出等だけでなく、事業所では地域の住民との触れ合いを大切にする考えから、地域のふれあいサロンへの参加を継続して支援している。また併設の有料老人ホーム入居者との行き来もあり、入居後の日常的な近所付き合いともなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や利用者同士の関係性に配慮しながら誰もが心地よく安心できる生活環境を提供できるよう努めている。利用者同士でも認め合える関係づくりが出来るよう支援している。			

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合にはお見舞いにも伺ったり、家族とも連絡を取り合い退院後の相談や支援に応じたり、また、転所等の場合には新しい環境に早く馴染めるように関係者に情報提供を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が今の暮らしの中で何を望んでいるかを把握するために本人との関わりを多く持ち安心できる関係作りに努めている。また、家族とも情報を共有している。	朝から一日を通して入居者との触れ合い・寄り添いの中から思いや意向を把握している。入居者のこれまでの生活や認知症の症状、また家族の意向等も把握し、入居者のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状態については、家族をはじめ関係者(ケアマネ、病院等)からしっかりと情報収集を行い、可能な限りこれまでと同じような生活が継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や関わりにより本人の生活パターンや心身状態を把握し、安心した生活が出来よう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決め、全職員がケアプラン作成を理解できる状況にある。モニタリングや担当者会議により検討することで本人の現状により即した支援を行うことが出来ている。	担当制としながらも入居者のケアには全職員であったり、情報を共有して意見を出し合っている。現在、担当者による介護計画書の作成及び3ヶ月毎の評価に向け移行中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌やチェック表に毎日の状態を記録しており、職員は必ず出勤時に記録に目を通し情報を共有することで統一したケアができるとともに、成功例失敗例等も把握でき、プランの見直しやより良いケアのヒントとなり得ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせ、本人・家族が安心してサービスの利用ができるように他事業所との連携を図り、情報の提供等も行っている。		

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で安心・安全な生活を継続していきけるように、地域住民・地区の消防団・警察・病院・学校等とも連携・協働したり、地域の定期的な公民館活動に参加することで気分転換が図れたり地域住民との交流もなされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれにかかりつけ医を持っておられ、定期的な訪問診療を受けておられる。これらかかりつけ医とは日頃より情報の共有や連絡・相談は密に行っており、特変時等の対応においても連携が図れており、本人・家族も安心しておられる。	入居前のかかりつけ医による受診を継続して支援しており、協力医の希望も多い。現在内科・歯科等3医療機関からの往診があり、外科・皮膚科等個別専門医の受診は基本的に家族付き添いによる受診としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の健康管理や特変時の対応については事業所内の看護師及び法人内他事業所の看護師を中心に適切に行っている。24時間常に連絡がつく状態も確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には病院に情報提供を行い、環境変化への精神的負担をできるだけ増幅させないように面会に伺ったりしている。必要に応じてカンファレンス等にも参加して、病院との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明とアンケートを実施している。本人の状態によりホームで看取りを行う場合にはその時点で改めて家族・かかりつけ医・ホームの三者で話し合いを持ち、その後の方針を検討していく。看取りケアについての学習会等を開き知識を持ちチームで取り組んでいる。	入居時に終末期医療についての事前調査を行い、重度化した場合における指針・終末期ケア対応指針を元に同意書を得ている。実際にその時を迎えた際には改めてターミナル実践同意書を得、関係機関での話し合いにおいて看取り用介護計画・生活記録を作成、「いつもの顔・声」による安心感を持った生活ができる様支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時のマニュアルもあり、職員が常に手に取れる場所に設置している。また応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っており、実践力としても概ね身についている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災時の避難訓練は地域住民や地域の消防団の方々にも参加していただき実施している。近年、風水害が多発しているためこれらの災害についてもマニュアルを使つての机上での学びだけではなく実際の訓練の必要がある。	年2回の避難訓練には地域住民・地域自衛団や町役場にも声を掛け参加も見られる。事業所内では特に居室において高い場所に物を置かない等、危険個所の確認も行っている。	自然災害への不安が少ない地域ではありますが、現在では火災以外にも様々な災害・被害が考えられます。運営推進委員会等を活用し、地域住民と話題を持つことも必要かと考えます。

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の第1番目に掲げているように、「利用者の尊厳と権利を損なうような言動は行わない」ことは職員間で徹底できている。気になる言動に対しては互いに声をかけあうなどしながら常に意識付けを行っている。	理念の第一項目に入居者の尊厳を掲げており職員に浸透している。日頃のケアの中で気になる点が見られた際には互いに声を掛け合い、また職員自らの気づきを大切に意識付けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の言葉で思いや希望を表出できない方も多いが、そのような方に対しても日頃の生活の中における行動や表情等から出来るだけ本人の思いに近い支援が出来るよう努めている。また、働きかけを行う場合も簡単に答えられるような問いかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で連携を図りながら利用者が安全に過ごせるよう配慮しながら職員のペースに利用者を含ませるのではなく自分らしく生活していただけるようさりげない促し等を行いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを確認しながら衣服も一緒に選ぶように心がけている。着衣後は汚れやきちんとした身なりが来ているかを都度都度確認している。ヘアカットは訪問美容師を利用されている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中でその日のメニューの紹介を行い想像を膨らませたり、メニューに合わせ見栄えのするよう食器の選択も行い目でも楽しめるよう配慮している。片付けや食器拭きには利用者も参加して頂いている。	今年より業者からの配食提供となった。これまでの手作りによる音や香りを入居者との会話で補う様、職員の関わりを充実させている。家族や近隣からの差し入れもよくあり、おやつ等に取入れている。	調理専門の職員も配置されており、食事に関わる入居者の活動支援として、職員は「一緒に笑う時間を大切に」、寄り添う時間としている様子が窺えました。食事はホーム生活の楽しい時間ととらえて入居者との関わりを継続に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ自己摂取ができるように一人一人に合わせた形態や食器で提供している。食事量・水分量はチェック表に記入し、定期的な体重測定を行いながら状態観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の歩行状態等に配慮しながら毎食後の口腔ケアは洗面所やテーブル席にて行っている。まずは自身で行って頂き、その後確認を行う。歯ブラシ・コップ・義歯は定期的に消毒を行い常に清潔を心がけている。		

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表等から一人一人の排泄パターンを把握し、個別的に声かけや促しを行いながら誘導するなどの支援を行っている。その際にはプライバシーや羞恥心に対し十分な配慮を行っている。	日中はリハパン・パットを利用しながらそれぞれに応じた声掛け・誘導を行っている。夜間は状況によりポータブルトイレ等も利用し、出来るだけの自立を考えた支援を行っている。快適な生活のため、水分・繊維質にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品等の摂取を中心に、個々に対しては体操や歩行等をすすめ体を動かしていただけるような環境も整備している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態やタイミングに合わせた支援を行っている。入浴が気分転換や清潔保持に繋がるよう場合によっては気の合う者同士一緒に入浴したり、入浴ができない場合は足浴や全身清拭で対応している。	週2～3回を基本とし、それぞれの体調や意向を考慮しながらの支援を行っている。汚染の際には入浴日に限らずシャワー等を用い、清潔保持を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早めに休まれる方、遅くまでテレビや会話を楽しまれる方等それぞれである。画一的に就寝時間を決めるのではなく個々に対応している。夕方以降は職員の声のトーンや照明等にも配慮したり、心地よく入眠出来るよう居室の環境整備もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に体調管理を行っている。服薬内容や目的については個々の処方箋を常に目にする事が出来る場所に設置し職員全員が確認・把握できるようにしている。服薬については3重にチェックをし間違いを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態や嗜好に合わせた本人らしい生活ができるよう本人の状態把握に努めると共に家族からも情報をいただきながら支援内容を検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出を希望される事はあまりなく、家族の希望等により外出される事はある。本人の行動や状態を確認しながらホームの中庭やホームの周辺を散歩したり、ホーム内外の行事に参加したりと非日常の生活や刺激のある生活を楽しんでいただいている。	日常的な生活では敷地や周辺の散歩を行っている。計画外出では季節毎の花見や法人全体での日帰り外出等、趣向を凝らし皆での外出を支援している。昨年・今年と入居者の入れ替わりもあり、状況に合わせた支援を行っている。	

グループホームひまわり21岱明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い、場合によっては少額のお金を持っていただくこともあるが、多くの場合はお金は所持されず家族が管理されている。必要時にはホームが立替えお金を使われることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも使用でき、かかってきた電話についても取次は可能である。遠方におられる家族には手紙で本人の状態報告を行っている。本人宛に届いた手紙については本人に渡し、希望があれば代読することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には利用者が興味・関心を持てるような掲示物を貼ったり、季節を感じるような物(花や果物等)を飾ったりしながら快の刺激を得られるよう工夫している。また自由に安全に行動できるよう家具等の配置や床の水濡れ等には十分配慮をしている。	事業所全体が明るく広々とした作りであり、季節の花が彩を添えている。事業所内には所々にベンチが置かれており、入居者が思い思いに過ごす場所も確保されている。車椅子や歩行困難な場合でも安全に移動が出来る様、家具等の配置にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置にも配慮し皆で集えたり、他者の声を聴きながらも一人でゆっくりと過ごせるような空間を準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態を家族と共に確認しながらまずは安全に生活できることを考え、その上で馴染みの物や大切にしているものを配置している。認知症の症状によってはベッドのみの配置で殺風景な居室もある。	居室は畳敷・床、またベッド・布団と、入居者の意向を大切に家族の関わりもあり、それぞれの生活に合わせた環境としている。意向を大切にしながらも安全を第一と考え、家具の配置や荷物の配置等には家族との話し合いのもと、状況に合わせた環境作りを行っている。	昼間に居室にあるポータブルトイレの置き場所が少し気になりました。昼間使用されない方のポータブルの目隠し等の配慮を望みます。(布を被せる・周囲を囲む等)
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名札を掲げ自身の居室であることを認識していただいている。また、トイレや浴室にも表示を行い、自身の目的に沿って行動しやすい支援や安全に移動できるよう各所に手すりの設置もある。		

2 目 標 達 成 計 画

ひまわり21岱明

作成日 平成30年 12月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を外注に変更し、変更前に比べると食材を切る音や煮炊きのおいが減り、食に対する刺激が薄れてきている。	食に対する興味関心を継続していただく	<ul style="list-style-type: none"> ・食事前の利用者との対話では特に食に関する話題を多く盛り込む（メニューの紹介も含む） ・おやつは出来るだけ手作りとし、利用者共同作業とする ・利用者の状態に合わせ、つぎ分け等を一緒に行っていた ・温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で提供し献立のおいしさを最大限に引き出せるよう調理（温め）時間等配分の工夫を行う 	即時
2	54	昼間ポータブルトイレを使用されない時でも夜間帯と同じ位置に設置したままである。	見栄えも良く、居心地の良い居室環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的及び汚染ある時は本体ごと洗浄し、中庭で干し上げる ・昼間使用されない方のポータブルトイレは本人の動線の邪魔にならず入り口からも死角になるような場所に配置する 	即時
3	2	限られた職員だけではなく全ての職員が認知症や事業所の啓発を行えるための力量を身に付ける必要がある。	認知症や事業所のことを地域の方々に知っていただく	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館活動や市の研修会への積極的参加を今後も継続していきながら顔の見える関係作りをより強固なものにしていく 	1年
4	35	火災だけではなく自然災害に対する訓練は行っていない。	災害時に利用者を守る術を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集に努め、随時マニュアルに追加していく ・自然災害については机上の学習会に加え、実際の避難訓練を計画し実施する ・推進会議等を利用しながら地域の方々と情報共有したり、災害時の協力体制を作っていく 	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。